

令和元年度 学校評価のまとめ

【評価と評価点】 A：そう思う(4点) B：だいたいそう思う(3点) C：あまりそう思わない(2点) D：そう思わない(1点)

北塩原村立さくら小学校

A：3.25以上 B：2.5以上～3.25未満 C：1.75以上～2.5未満 D：1.75未満 (自己評価の総合評価は3観点の観点別評点の平均で行っています。)

項	No.	評価事項	分類No.	評価の具体的観点	自己評価		外部アンケート		学校関係者評価	具体的成果(○)・課題(●)・改善策等(※)	
					観点別	総合	保護者	児童		自己評価の自由記述	
運	1	学校は、学校教育目標の達成に向けて、組織的に運営し取り組んでいる。	1-1	「報告・連携・相談」の原則	A	A	A	A	A	○組織的な取り組みの充実 ●確実な伝達	○先生方の取り組み姿勢に熱意が感じられる。
			1-2	組織を生かした協働体制	A						
			1-3	校務分掌の積極的推進	B						
営	2	学校は、体験的な活動を取り入れ、道徳教育の充実を図っている。	2-1	体験的活動の導入(学年)	A	B	A	A	A	○自然体験学習の充実 ●プログラム教育 ●キャリア教育 ●子ども主体の活動	○自然体験学習により、北塩原及びこの地域を「僕の誇り」に思えてもらえるとうれしい。
			2-2	学校全体で取り組む道徳教育	B						
			2-3	道徳の授業の充実	B						
般	3	学校の教育内容は、学校行事や参観日を通して、保護者や地域に伝わっている。	3-1	運動会・文化祭の推進	A	A	A	A	A	○村との合同行事の充実(2) ○多くのボランティアの方々の協力による活動の充実	○村民は、運動会・文化祭等に共に参加できることを楽しみにしている。観客も多くなっている。
			3-2	保護者・祖父母参観の工夫	A						
			3-3	各種「お知らせ」の配付	A						
4	学校は、学校・学級だより、ホームページ等で情報を提供している。	4-1	学校だより・HPによる提供	A	A	A	A	A	○連絡帳や電話などでの情報共有(2) ○HPの充実、タイムリーな情報共有	○たよりやHPで活動内容がよく分かる。子ども達に「○○は楽しかったか」と声をかけると、うれしそうに答えてくれる。 ○こまめなHP更新、すばらしい。	
		4-2	学級だより等による提供	A							
		4-3	連絡帳等、双方向の情報交換	A							
思	5	児童は、あいさつやくつそろえ等、基本的な生活習慣が身についている。	5-1	心のこもったあいさつの励行	B	B	B	A	A	○挨拶できる児童の多さ ●心のこもった元気な挨拶 ●トイレのスリッパ ●ノーチャイムでの行動(時間の切り替え/休み時間後の授業開始時刻/時計を見ての行動)	○挨拶をしてくれる子どもの多さに驚きます。●見守り時の挨拶は、昨年から低下傾向(声が小さく、挨拶しない子が多い)。●学校ではよいが、外に出るとできない子がいる。○家族間での挨拶が大切。見て育つ。
			5-2	くつそろえの励行	B						
			5-3	ノーチャイムによる時間厳守	B						
や	6	児童は、いじめや意地悪をすることなく、まわりへの思いやりをもち、楽しく元気に過ごしている。	6-1	学級における人間関係	B	B	A	A	A	●児童間のトラブル(組織的な対応は出来ている)	●まわりへの思いやりを持たず、わがままな行動をとっている子どもへの指導に期待したい。 ●教師の目の行き届かないところでの子どもの行動に注意を払うべき。
			6-2	登校班における人間関係	B						
			6-3	縦割班による活動	A						
る	7	教職員は、児童のよさや課題をよく理解し、児童や保護者との教育相談にあたっている。	7-1	児童との個別相談の推進	A	A	A	A	A	○教育相談・個別懇談の充実 ○情報の共有化による学校全体での対応 ○様々な場面での児童の活躍や良さを教職員間で伝え合う環境	●指導者は、様々な声に耳を傾け、一人一人を大切にされた指導の充実を図ってほしい。
			7-2	保護者との教育相談の推進	A						
			7-3	情報の共有化と協働体制	B						
子	8	教職員は、自ら手本となるなど、児童に対して規範意識を高める指導をしている。	8-1	学級(道徳、学活)での指導	B	A	A	A	A	○学校の応援団との連携アップ(夏休みの勉強会等) ○ジオパークなど新たな取り組み	
			8-2	学校行事等での指導	A						
			8-3	外部講師等からの指導	A						
学	9	児童は、落ち着いた環境の中で、学習内容を理解しようとしている。	9-1	聞き合える学習集団の確立	B	A	A	A	A	○各場面での粘り強い指導 ○目的と方法を明確にした話し合い ●隣の学級の音の反響	
			9-2	話し合い活動の工夫	B						
			9-3	繰り返しの指導による定着	A						
習	10	児童は、さくらタイムや自主学習ノートに自主的・意欲的に取り組んでいる。	10-1	さくらタイムの取り組み	B	B	B	A	A	○読書週間での子どもの意欲 ○自主学習の仕方への指導 ●読書活動の更なる推進 ●さくらタイムの内容の充実(2) ●自主学習への教師と保護者のずれ	○読み聞かせの時間の子どもの集中力はすばらしい。 ●オールさくらで、自主学習をすすめるべき。
			10-2	読書活動の推進	B						
			10-3	自主学習ノートの充実	B						
る	11	教職員は、一人ひとりの状況を的確に把握し、わかりやすく工夫した授業をしている。	11-1	NR T等調査結果の分析	B	B	B	A	A	●個に応じた支援への工夫	●劣る子どもを救う工夫がほしい。
			11-2	個に応じた学習支援の工夫	B						
			11-3	現職教育、外部研修の充実	A						
子	12	教職員は、学ぶ環境や学ぶ姿勢、学習ルールに関し、定着するようくり返し指導している。	12-1	教室環境の整備	B	B	B	A	A	●忘れ物をしてしまう子どもへの指導(2) ●時期を逃さない掲示や作品紹介	
			12-2	忘れ物に関する継続的な指導	B						
			12-3	学習ルールの定着	B						
運	13	児童は、「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣が身についている。	13-1	実態把握と学級での啓発	A	B	B	A	B	○養護教諭の取り組み ●ゲームなどとのつきあい方 ●生活リズムの作り方 ●家庭からの協力(3) ●個々の課題解決に向けた取り組み	○登校時間帯が早くなり、グループ別の行動からはAと判断できる。 ○朝食を食べた子と食べない子では学力に差が出ることを理解したい。 ●家庭での指導が不足している。●家族の意識が大切である。
			13-2	個々の課題への対応	A						
			13-3	保護者との連携強化	B						
動	14	児童は、体力の向上を目指し、体育や休み時間等、意欲的に運動に取り組んでいる。	14-1	実態把握と個に応じた推進	B	B	A	A	A	○体力作りの充実 ○運動身体作りプログラムn継続による体力の向上 ●(鼓笛の練習等により)昼休みにおける体を動かす時間の減少	○先生は、いろいろなしかけを作って意欲を引き出したり、継続させたりしようとしている。 ○朝や休み時間の活動は、とても活気がある
			14-2	体育の授業での推進	A						
			14-3	休み時間の活用推進	B						
る	15	学校は、運動会やマラソン大会等とおして、体力の向上に対する指導を行っている。	15-1	体力テストの分析	A	A	A	A	A	○マラソン記録会に向けての指導の充実	○順位だけではなく、それぞれの子どもの目標が達成されることを重視したい。
			15-2	行事に向けての働きかけ	A						
			15-3	個々の課題への対応	A						
子	16	学校は、保健だよりや給食だより等をおして、健康や食生活の改善に関する啓発をしている。	16-1	保健だよりの活用	A	A	A	A	A	○すこやか教室による継続指導 ○お便りによる情報提供 ●子どもの実態把握	
			16-2	給食だよりの活用	A						
			16-3	個に応じた継続的な指導	A						
連	17	学校は、地域の特色や地域の力を生かした教育活動をしている。	17-1	積極的に地域を学ぶ姿勢	A	A	A	A	A	○学校の応援団の積極的な活用(3) ○地域(理解)学習の機会の設定と協力(2) ●不十分な地域理解	○学校と地域が一体となっているのがすばらしい。マラソン大会や鼓笛パレードにも大勢応援が来ている。村民は、子どもから元気をもらっている。○活動実績の多さが、充実性を表している。
			17-2	地域学習の積極的な導入	A						
			17-3	地域の教育力の活用	A						
携	18	学校は、村青少年健全育成村民会議事業を推進し、家庭や地域と連携・協力している。	18-1	方針・趣旨の理解	B	B	A	A	A	○定着したノーメディアへの取り組み(達成率の高さ) ●形式的でない指導の必要性	○ノーメディアの取組は、学校だけでなく、地域も一体となって行われるとよい。
			18-2	ノーメディアへの取り組み	A						
			18-3	公民館行事への協力	B						
協	19	学校は、小1プロブレムや中1ギャップ解消のため、幼稚園や中学校と有効な連携を図っている。	19-1	幼稚園との連携強化	A	B	A	A	A	○年長組と小学校との取り組みの増加 ●積極的な参画	○幼稚園や一中との交流も行われていてすばらしい。 ○小学校の先生方が積極的に園児にかかわり、理解していただいている成果として、園児は入学への不安が減り、とても楽しみにしている。
			19-2	中学校との連携強化	B						
			19-3	幼小中連携推進事業への取組	B						
力	20	学校は、保護者や地域と連携して、交通事故防止等の完全対策を推進している。	20-1	日常的な指導の継続	A	A	A	A	A	○互い様子が分かるよう情報共有 ●保護者との有機的な連携	○下校時の屋根からの雪に注意させたい。 ○見守り隊と連携しての取組が素晴らしい。
			20-2	事故防止への取り組み	A						
			20-3	各種訓練の充実	A						